

聖母女学院短大 ○大上智恵子
奈良女子大 北村 君

1. 主婦の家庭生活に対する意識等に関する研究は、すでに種々なされている。しかし、新時代の教育を受け次代の主婦として、その役割を担うはずの女子学生が、理想とする家庭生活の営み方、あるいはまた、現実の家庭生活において、果たしている役割等は、どのようなものであろうか。これらを知ることは、家政教育の立場から重要であり、また、あまりなされていないようである。

2. 演者らは、これらを知るために、家政学専攻の女子学生 380 名につき調査し、その結果を比較検討した。

3. 総合的にみると、主婦の果たすべき役割として、重要と意識しているのは、家族関係、健康管理、教育、経済、家事、趣味、社交の順である。一方、現実の生活をみると、家族関係、健康管理、教育、家事、経済、趣味、社交の順となっており、家政の理想像は、現実の生活で、主婦としての母が行なっているものと、ほぼ同じであり、その相関性は、4年制大学の学生の方が、短大生のそれよりも高くなっている。

家庭生活において、学生が果たしている役割（11項をあげた）のうち、最もよくやっているものは、「料理を手伝う」であり、やっていないものは、「家計に関する協力」である。また、学生が行なっている家事で、好きなものは、「室内装飾」「料理」等であり、きらいなものは、「食事の後片づけ」「接客」等である。これらから、学生の家庭生活に対する寄与の度合をみた。